

令和8年度 第1回学校運営協議会 議事録

1 日時

令和8年6月4日（木）15:00～16:30

2 会場

岩手県立花巻農業高等学校 生物科学科実習室

3 出席者

[学校運営協議会委員]

海邊 健二 委員（会長）、吉田 正志 委員、藤田 康悦 委員、川村 由佳 委員、
小宮山 久美子 委員、山本 講治郎 委員、八重畑 亘 委員、小田島 弘通 委員、
市丸 成彦（副校長）、小池 美香子（総務主任）

[学校教職員]

校長、副校長、事務長、総務・図書主任、教務主任、生徒指導主事、進路指導主事、
保健主事、農場長

4 会議内容

(1) 開会のことば

(2) 校長あいさつ

日頃から、委員の皆様には本校の教育活動にご協力をいただいております。今年度についても13名に委員の委嘱をさせていただくので、よろしくお願いいたします。

さて、今年度は1年生が81名入学し、全校生徒数237名で学校生活が始まっている。少子化の影響により本校生徒も減少傾向にあるものの、昨年度と同等の全校生徒数を維持できていることは、本校が地域から一定の理解を得ているものと認識している。

一方、環境科学科の入学人数は7名であったことから、学科の教育内容等について検討し、中学生が入学を希望する学科にすることが喫緊の課題と捉えている。

学校の状況については、部活動で活動している生徒は一生懸命に取り組んでいる。特に、高総体ではボクシング部や弓道部の活躍が見られた。文化部でも鹿踊部や写真部が活躍しており、7月に秋田県で開催される全国高等学校総合文化祭には写真部が出場することとなっている。

農業クラブの学習活動も熱心であり、本校の根幹である専門学習を推進しているところである。

本日は本校の教育計画や基本方針についてご意見をいただき、今後の学校運営の改善等に反映させたいと考えているので、よろしくお願いいたします。

(3) 令和8年度岩手県立花巻農業高等学校学校運営協議会会長及び副会長の選任

設置規則第5条に基づき、委員の互選により次のとおり決定

会 長：海邊 健二 委員

副会長：佐藤 巧 委員

(4) 令和8年度学校経営計画について

【校長】令和8年度学校要覧（6頁）に基づき説明等

①校訓・教育目標について

②スクール・ポリシーについて

③魅力化協働パートナーについて

④目指す学校像について

- ・今年度の重点目標
- ・取組方針

⑤業務量管理・健康確保措置について

- ・「振替」や「特割」活用の徹底
- ・教職員のウェルビーイング確保に向けた取組の推進

[質 疑]

【委員】

重点目標の達成指標の数値について、学校アンケートの実施予定時期と集計方法を伺う。

【校長】

例年、後期中間考査後に全校生徒及び保護者、職員を対象にアンケートを行い、4段階評価で回答していただき、肯定的な回答人数の割合を数値化して評価している。

【委員】

働き方改革を踏まえ、教職員の勤務時間を軽減すること等が示されているが、保護者にも周知し、理解を得た上で推進すべきである。また、部活動指導に従事する教職員が、休日勤務が多い状況は改善するべきと思う。

(5) 学校概要について

①令和8年度の状況

【副校長】

学校要覧（10～14頁）に基づき説明等
・職員構成、生徒数等

[質 疑]

【委員】

近年、環境科学科の入学者数は、3学科の中では少ない人数で推移していたが、今年度の入学者数は7名であった。中学生に環境科学科のイメージがうまく伝わっていないことが要因と考えられるが、高校として入学者が減少した原因をどのように捉えているか伺う。

【委員】

環境科学科では、毎年、生徒たちが実習で作製した門松を花巻空港等に寄贈するなど、地域貢献活動を継続していることを報道等で承知している。

一方、中学3年生の親は、高校を選択するにあたり、子どもが志望する学科の入学者数が少ないと、充実した高校生活を送れるものか不安を感じるものである。

【委員】

中学生からすると、食農科学科は調理や加工品製造を学ぶ学科というイメージが伝わりやすいが、環境科学科の学習内容はイメージが伝わりにくいのではないか。

【委員】

中学生が高校を選択するにあたり、入学後のイメージを持てることが重要である。高校説明会等において、学科の学びに関連する職業に触れ、高校卒業後にどのような仕事に就くことができるか、具体的にアピールすると中学生は理解が深まると思う。

中学生の段階では専門高校のキャリア教育の内容を十分に理解していないので、高校から中学生に具体的に説明することが望まれる。

【委員】

昨年10月に開催された花農祭を見学したところ、学科展では学科の学習内容を紹介するポ

スター展示もあり、中学校2年生が見たら進路選択の参考になるものであった。中学生が環境科学科の測量の学習に触れることで土木関係の仕事に理解が深まると思うので、ぜひ中学校の早い段階から環境科学科の学習内容をアピールするべきである。

【農場長】

環境科学科では、長年にわたり、土木や造園に関する国家資格の学習を行ってきた。また、実習で作製した門松の寄贈や、2年前までは花巻市内の中学校で庭園整備の出前授業を実施するなど、地域から評価をいただいているものと認識していたが、今年度の入学者が減少したことは大変残念に思っている。

中学生に対しては、土木や造園関係の資格が取得できることをアピールしているものの、反面、その学習しかできないイメージを持たれてしまうことを懸念している。

今後は、土木や造園以外にも、フラワーガーデニング等ができることもアピールしたい。

近年、中学生1日体験入学においても環境科学科を選択する中学生が少ない状況にあることから、今後、中学生に広く興味を持ってもらえる取組みをしていきたい。

【委員】

2年前まで中学校で出前授業を行っていたと説明があったが、そのような取組は入学者の確保に成果があったのではないか。

中学生は楽しい学校というイメージを持つと進路に結び付く傾向がある。高校説明会では、中学生に学科の楽しさが伝わるよう、映像等でわかりやすくアピールするとよいのではないか。環境科学科は県内唯一の学科なので、来年度以降の入学者の増加に期待する。

【農場長】

従前の環境科学科には、部活動に意欲的に取り組む生徒が多く入学していた。体を動かして仕事をするのが好きで、建設や造園の会社に就職する傾向が強かったが、近年は部活動が任意加入になったこともあり、学科に関連した進路も減少傾向にある。

【委員】

学科の取組が地域で高く評価されることと、中学生の志願者が増加することは必ずしも結び付くものではない。また、学校が掲げるアドミッション・ポリシーに合致する人物のみが入学しているものではないことも悩ましいことである。

教育活動の中に、いわゆる「映える絵」をアピールしていくとよいのではないか。どうしたら中学生の心をつかむことができるか、学校の情報発信力が問われていると思う。

②本年度の基本計画（各部）

【各部主任】

学校要覧（8頁）に基づき説明等

・総務図書部、教務部、生徒指導部、進路指導部、保健教育相談部、農場部

【委員】

本校は、来年、創立120周年を迎える歴史があり、二枚橋で開催する羅須プラザの販売実習には、多くの卒業生や地域住民に足を運んでもらいたい。

【委員】

本校の進路指導においては、3月の春休みに新3年生を対象とした企業見学会を実施している。この取組は早期に生徒の進路意識を高揚させ、就職実績にも結び付いている。

【委員】

中学校の職場体験では、中学校の先生は引率せず、生徒は親の送迎または自分一人で会社まで行くことになっている。中学生でも自分で会社を訪問しているので、高校生も教職員が引率しない形で実施してよいのではないか。

【委員】

昨今は転職しやすい時代となっているところではあるが、学校を卒業した段階で本人にとって満足度の高い就職ができると、その学校に入学してよかったという思いや学校生活の満足度は高まるものである。教職員の負担を軽減しつつ、自分の希望する企業に就職できるキャリア教育の枠組が構築できればよいと思う。

【委員】

昨年の花農祭に参加したところ、人気のイチゴやブルーベリーのジャムをはじめとした花農ブランドはおいしかったことから、二枚橋の羅須プラザでも買いたいと思っている。学校ホームページに羅須プラザの店舗場所が掲載されているが、花巻市周辺など、より多くの方にも来ていただけるようにPRしたらよいのではないかと。

③令和7年度の実績

【副校長】

学校要覧（21～23頁）に基づき説明等

- ・卒業生の進路状況、部活動・農業クラブ活動、各種資格取得者数

(6) 意見交換

- | |
|---|
| <p>[視点1] 持続可能な社会の創り手、地域や地域産業等を担う人材の育成</p> <p>[視点2] 本校の「特色化・魅力化」の取組を深化させるために</p> <p>[視点3] 少子化における入学者数の確保</p> |
|---|

【会長】

本日は、委員の方から多くの意見が出されている。入学者の状況、教職員の働き方改革、学校運営計画、キャリア教育等についての話があった。

本校は、来年、創立120周年を迎えることとなる。地域産業の担い手を育成する学校として、どのように特色や魅力をアピールし、少子化の中で入学者を確保していくべきか、委員の考えや学校への提言など、花巻市に本校あってこそという思いで意見を伺う。

【委員】

先月、JA直売所「母ちゃんハウスだぁすこ」にて、生徒たちが作った洋菓子を試食する機会があった。本校の生徒たちは、地域に出て活発に活動している印象を持っている。

今年度の環境科学科の入学者は7名であった。県の再編計画によると、来年度の高校入試から、専門学科の志願者数が2年連続して10人以下となった場合、原則として、翌々年度から募集停止となることが示されており、このようなことにならないよう、環境科学科の入学者数を確保しなければならないと考えている。

少子化で生徒が減少する中、普通科志向の高まりを感じているが、専門高校の良さは地域の担い手を育てることにある。先般、花巻市内の企業の代表と話す機会があり、本校の卒業生は地域産業の即戦力として期待されているという話をされたところである。

中学校3年生は、今秋までには志望校を絞ることになるので、今後、半年間ほどが志願者数の増加に向けて力を入れて取り組む時期となる。

【委員】

地元の企業から、本校の卒業生が頑張っていると言われることが何より喜ばしいことである。高校は多様な生徒が在籍していることから教職員は多忙であり、進路指導に十分な対応ができているか懸念している。本校の教職員が地域の企業や学校と十分に情報交換しつつ、進路指導を行うことができる状況が望ましいと感じている。

【委員】

多様な生徒が入学する時代なので、その多様性を受け入れて活躍できる場を与えていくことが学校教育で必要になると思う。

【委員】

近年、本校から農協関係に就職する生徒が少ない状況である。本校で学ぶ生徒は農業分野の即戦力ということもあり、農協関係に就職するよう進路指導をお願いしたい。

【委員】

農協の業務内容は多岐にわたるため、高校生が就職を考えた場合、どの部門の業務が自分に適しているかわかりにくいのではないかと。生徒が農協の業務内容を理解して進路として選択できるキャリア教育の機会があれば、農協に対する理解につながるものと思う。

【委員】

過去に学科改編をした当時、各学科には専門性の高い教職員が多数在籍していた。そのような職人レベルの指導力を有する教職員の姿を見て、生徒がついてきたものである。

昨今の教員の業務は多忙であり、教職員が専門性を発揮しやすい学校となるよう、業務の見直しを推進するべきと思う。

【会長】

本日は、学校の教育活動について、各論も含めて情報共有や意見交換をすることができた。特に、環境科学科の入学者確保、キャリア教育、地域産業の人材育成のあり方など、多様な観点から意見があった。本日はいただいた意見は、校長はじめ学校の教職員に取り入れていただきたい。

また、本学校運営協議会の委員をはじめ、地域産業と連携を図りながら、地域とともに学校を盛り上げていただけたらよいと思う。

本日は限られた時間ではあったが、有意義な議論ができた。今後も学校の応援団として盛り上げる支援をしてみたい。

【校長】

本日は、委員の皆様から本校の学校運営に係るご意見等を多角的にいただき、今後の教育活動の改善点を見出すことができた。また、中学生に農業の魅力を伝え、本校を理解していただく重要性を再認識することができた。感謝申し上げます。

いただいた貴重なご意見等は、今後の教育活動の充実に反映させてまいりたい。今後とも、本校にご支援をいただきますようお願い申し上げます。

(7) 閉会のことば